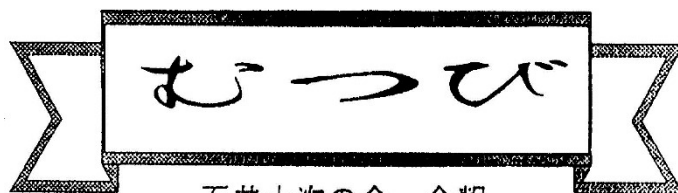


2021年
(令和3年)
10月13日



289号

石井十次先生からの学びと私の仕事

自衛隊宮崎地方協力本部長 石原 信也

1 はじめに

「むつび」読者の皆さま。はじめまして。立秋とは名ばかりの暑い日が続いていますが、いかお過ごしでしょうか。

自衛隊宮崎地方協力本部長の石原（長崎県出身の航空自衛官。階級は1佐（大佐）です。）と申します。このような執筆機会をいただき光栄です。

私が、自衛隊宮崎地方協力本部長（※1）として着任して1年が経とうとしています。

この1年を振り返りますと、昨年以来の新型コロナウイルス感染症により、日本のみならず、世界全体が経験したことのない困難に直面しています。新型コロナウイルス感染症に関しては、ワクチン接種をしたとしても、一人ひとりが行う基本的感染症対策（マスク着用・身体的距離の確保・手洗い消毒等）、感染リスクが高まる「5つの場面」を避けるなど、愚直なまでに徹底する必要性を痛感しています。

シェイクスピア作『マクベス』に「明けない夜はない」という台詞があります。お互いに、もうしばらく... もうしばらく... 頑張りましょう。

※1：自衛隊宮崎地方協力本部は、宮崎県において、

- ①「平和を、仕事にする 陸海空自衛官募集」
 - ②国民保護・大規模災害が発生した際、県など自治体等との調整窓口
 - ③自衛隊を皆さんに知ってもらう（広報）
- ことを担当する自衛隊の組織（機関）です。

2 宮崎の偉人「石井十次」先生との出会い

長崎県出身の私は、宮崎県について知らないことも多く勉強の毎日です。着任以来、宮崎をよく知るため、『宮崎県史』（編集発行：宮崎県）をはじめ、宮崎に関する書物等を読み漁っています。その中で出会った『宮崎の偉人』（佐藤一一著、鉦脈社）という一冊の本が、私と石井十次先生をつなぎました。

同本は、国の内外で活躍した宮崎県出身の先輩たちの生い立ち・業績を記した書籍です。その筆頭で、「三千人の孤児の父 我が国の福祉事業の先駆者」と題して、石井十次先生が取り上げられており、その理念と行動力に非常に感銘を受けました。特に、己のキャリアを投げ捨て、私財をも投じ、児童福祉分野において「無」から「有」を創り上げた石井十次先生の志の強さ・その行動力は、敬服の念に堪えません。

3 児童福祉への関心の原点

私は、航空自衛隊の建設・営繕業務、防衛省・自衛隊の情報活動等に従事してきました。これまでの中東アフリカ地域へ、防衛駐在官、PKO（国際平和維持活動）要員等として派遣された経験もあります。

これまでの仕事を通じて、中東アフリカ地域における貧困問題、特に子供たちの惨状について心を痛めていました。特に、在イスラエル防衛駐在官時代は、諸外国の駐在武官・外交官などをランチに招き、劣悪な環境に置かれ、酷い生活を強いられている子供たちの状況につきブリーフィングし、寄付を募る活動などをしたこともあります。

また、パレスチナ西岸地区・ガザ地区などの女性・子どもたちの生活環境改善のため活動している国連機関・国際NGO職員などの付き合い・意見交換を通じて貧困問題への理解を深め、その解決のため微力ながらお手伝いなどした経験もあります。

一方、国内に目を転じると、日本国内にも多くの困難に直面している子供たちもいます。自分は何ができるのだろうかという自問、心の葛藤の中で出会ったのが、石井十次先生の教えと取り組みでした。身近なところで、助けが必要な子供たちのお手伝いをしたい。そういう思いが、私を駆り立て、石井十次記念館を見学し、この度、石井十次の会に入会する運びとなりました。

4 今後の取り組み

地に足を付けて、身近なところから着実にお手伝いをしていきたいと考えています。先に述べた出会いも、ご縁かと思えます。

まずは、石井十次の会の理念である

①石井十次先生の精神と文化遺産を守り

②石井記念友愛社卒園生の志を支援すること

から始めたいと思っています。また、献身的に子供たちのお世話をしているスタッフの方々のお手伝いもできたら良いなあとも思っている次第です。

皆さんの知人の中には、児童福祉、あるいは、ボランティア等に関心はあるけど、飛び込めない方もいるのではないかと拝察いたします。

そんな方々に、私が敬愛するマザー・テレサ（※2）の言葉を綴った『マザー・テレサ 日々のことば』（女子パウロ会）の一節でそっと後押ししてみたいかでしょうか？キリスト教徒でなくても、マザー・テレサの言葉は、心に触れるところがあるはずです。

「あなた方は今までに、ご自分の国のボランティア組織などを手伝ったことがありますか？もし、まだしたことがないのなら、あなたの人生の中のそのような機会を逃すべきではないと思います。そうした経験は、ほんとうの喜びと充実感を与えてくれます。あなたは、どこにもないようなイエス様とのふれあいという、貴重な体験をすることができるでしょう。」

（『マザー・テレサ 日々のことば』（女子パウロ会）6月12日のことば）

※2：マザー・テレサは、1910年、マケドニア生まれの修道女。特に、インドのカルカッタで貧しい人々に献身的な奉仕をした功績により1979年ノーベル平和賞を受賞しています。「愛の反対は無関心」のことばでも有名なのでご存じの方も多いかと思います。

5 私の仕事のこと

少しだけ私の仕事について紹介させてください。この1年間を防衛省・自衛隊の視点から簡単に振り返ると、新型コロナ感染症に伴う困難に直面したことに加え、様々な安全保障上の課題や不安定要因が顕在化・先鋭化しています。

我が国周辺の安全保障環境は、中国・北朝鮮・ロシアなどの活発な活動も相まって、これまでにないほど厳しい緊張状態にあります。また、国内に目を転じますと、大規模な自然災害や鳥インフルエンザ等の家畜感染症も頻発しています。

われわれ自衛隊は、日夜を問わず、国民の命と平和な暮らし、我が国の領土・領海・領空を守るべく、真摯に任務に励んでいます。誰かのために役立ちたいという志のある方は、ぜひ、下記までご連絡ください。非常にやりがいのある仕事です。また、自衛官は、特別職国家公務員ですので安定した処遇をお約束します。

●あなたのお近くの地方協力本部 自衛隊宮崎地方協力本部（みやちほん） 0985(53)2643

①自衛官になりたい、②自衛隊を体験したい（総合的な学習の時間・インターンシップ 自衛隊での生活体験など）、③退職自衛官を採用したい...のお手伝いをいたします。

宮崎地本

検索



宮崎支部からの活動報告

石井十次の会

宮崎支部長 芥川 恵子

コロナ感染防止の「三密」密閉、密集、密接を回避することが呼びかけられて1年半を超えます。人と人が距離を置くこと・集えないことは本当につらい日常です。

そんな中、宮崎支部の若い会員から「みんなで友愛社を訪問して、石井十次について学びませんか？」の声があり、話はまとまりました。年配の会員には、「お迎えに行きますよ。遠慮なく！」とのフットワークの良い会員からのありがたい申し出がありました。「密を避けて、庭で、それぞれの場所で、おいしいお弁当を食べてはどうでしょうか？」と、弁当の世話をしてくれた会員まで。さらに盛り上げてくれました。

こうして、本年4月10日友愛社。研修館で、児嶋理事長の話聞き、橋田会長との交流が実現しました。理事長、会長他支部会員16名の実りのある研修となりました。わが宮崎支部は、こうした若いエネルギーと支部の歴史を知る古くからの会員等多彩な人材に恵まれていることが何しろ財産なのです。



理事長と会長を囲んで

今、国内でコロナ禍の影響で昨年度は児童虐待件数が20万件を超えているとの新聞報道です。親の失業、貧困も加わり、実際は、さらに深刻と思われれます。考えただけで気が遠くなりそうです。では、私たちには、何ができるのでしょうか？

大きいことはできません。私たちは、会員相互が絆を大切に、まとまっていくこと。風通しの良い活動をめざしています。

ゆっくりではありますが、それは、小さな動きから徐々に大きなうねりとなるようにと願っています。

秋には、昨年も好評だった「こひつじ保育園での野外コンサート」を予定しています。

「楽しかった」と思えるようなコンサートとなるよう、未来を担う子どもたちのために、地域に根差した活動をめざしたいと思っています。

★ご寄付をいただきました

(敬称略)

【高鍋町】井手口 あけみ

★8/21～9/20の資料館来館者

団体・グループ 0人

個人 大人 13人

小中高生 2人

計 15人

ここまでの掲載者は編集委員会開催の都合により9月20日までのものとしています。

★11月号の通信発送作業

11月10日(水)

9時から印刷・製本

11日(木)

9時から印刷・製本

この会報は、宮崎県を中心に全国1700余の個人・団体に毎月送付しています。

社会福祉法人 石井記念友愛社

☎ 884-0102

宮崎県児湯郡木城町大字椎木

644-1

後援会「石井十次の会」

TEL/FAX 0983-32-4612

メール

yuuaisya-jyuujinokai@ki.jo.jp

●^{ねじろざか}根白坂の戦いと茶臼原孤児院

友愛社に近い中原の交差点から県道を北に500mほど上ると頂上に「根白坂古戦場」の説明板が建っています。今から434年前の天正15年(1587)4月、根白坂の戦いがありました。その年3月に九州征伐の軍を興した豊臣秀吉



は、25万の軍勢を率いて関門海峡をわたると、軍を二手に分け秀吉は第1軍を率いて筑前秋月氏を攻略。第2軍は羽柴秀長を総大将として軍師・黒田官兵衛が

同行し軍勢10万が日向路を南下。高鍋平野に布陣し島津の出城・高城を包囲。豊臣軍は高城を一望できる根白坂の頂上に二重の空堀を巡らした堅固な陣地を構築。迎え撃つ島津勢は4万5千。

島津の総大将・島津義久は現在の中原交差点付近に島津本隊を布陣させ、現友愛社あたりの茶臼原の地は軍馬で溢れます。義久は根白坂の陣地の奪取が勝敗の分かれ目と考え、2度にわたり夜襲をしかけますが、鉄砲隊の猛反撃に合い多数の戦死者を出して撤退。

精強を誇る島津勢をもってしても陣地を奪えず、義久は「圧倒的な軍事力の差」を痛感し「敗戦やむなし」を悟ります。5月3日、義久は剃髪して秀吉を訪れ降伏します。約300年後の明治23年、石井十次はこの茶臼原の地を孤児入植のために購入しました。十次は何故、戦いで蹂躪されたこの地を購入したのでしょうか。

児嶋草次郎理事長は次のように述べています。「(前略)俄然興味が湧いて来たのは、石井十次がこの歴史的事実を知っていたのかどうかということです。知っていて、その地の上に理想郷を作ろうとしたのだとすれば、これはもう次元を越えた最大の供養となります。『天は父なり 人は同胞なれば互いに相信じ相愛すべきこと』この言葉が、不戦の誓いにさえ聞こえて来ます。『知っていたに違いない』つい最近、そう思えて来て、20kmハイキングでこの戦場跡を歩くことにしたのです。(後略)」(高鍋史友会報第54号)

*編集後記

「むつび」巻頭の1～2頁は自衛隊宮崎地方協力本部長・石原信也様に玉稿をいただきました。感謝いたします。

コロナウイルスは未だ終息せず、しばらく隠忍自重の日が続きます。*文責 石川正樹